

令和7年度 学校評価総括評価表

徳島県立穴吹高等学校

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標における達成度※ () は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策		
1  確かな学力の育成	1-1  自らの将来を具体的に思い描き、主体的に学習することを通して、基礎学力の伸長と進路実現を図る。	1① 生徒対象の進路ガイダンス、進路模擬授業及び保護者対象の進路説明会等の行事を年間5回以上実施する。	1① 各行事の内容を精選し、生徒の興味・関心・適性等に沿ったものにする。また、保護者等に積極的な参加、参観を勧めるために進路説明会の内容を工夫する。	生徒対象進路ガイダンス4回：4/9、6/9、6/30、9/11 進路模擬授業及び保護者対象進路説明会等2回：5/10、3/17 進路講演会(10/18,19)実施	A	基礎学力の伸長と進路実現を図り、主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成する授業改善に成果をあげている。この取組を継続し、振り返りによる自己評価の活用を	生徒の主体的な進路選択につながるように、関心や進路希望を把握した上で、ガイダンスや模擬授業の時期・内容等を検討する。		
		1② 家庭学習を促し、特に定期考査期間中、各年次において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	1② 考査期間を含む1週間の家庭学習時間調査を実施し、生活スタイルの見直しや適切な学習内容についてHR担任や教科担任が助言する。	一人あたりの1日平均学習時間 [1年次生] 1.37時間(1.24時間) [2年次生] 1.34時間(1.14時間) [3年次生] 1.22時間(1.42時間)	B			充実、工夫してはどうか。リフレクション・シートを活用し、自分の成長の軌跡を振り返らせ、自己肯定感と進路実現への意識を高めてほしい。 学習を大切にしながら一	進路希望調査より、約半数の生徒が「平日放課後・休日に最も時間を使うことはSNS・スマホゲーム・動画視聴」と回答した。また、進路希望が未定の者や、具体的な目標がない生徒も多い。進路選択を自分事として捉えさせ、生活習慣の見直しをさせる必要がある。
		1③ 校内漢字テストおよび英単語テストを実施し、年間平均80点以上を以下割合の生徒が達成することを目指す。 漢字テスト 英単語テスト 1年次生 70% 40% 2年次生 60% 30% 3年次生 50% 30%	1③ 実施日に向けて国語科・英語科を中心に事前対策を実施し、各年次・クラスでも学習を奨励し、全校表彰に加えて年次表彰を設けることで漢字および英単語の主体的学びによる習得を督励する。	漢字テスト [1年次生] 71.2%(10.8%) [2年次生] 63.3%(38.6%) [3年次生] 55.2%(34.8%) 英単語テスト [1年次生] 50%(16.2%) [2年次生] 16.7%(17.1%) [3年次生] 17.5%(17.4%)	B			一人ひとりの個性を見だし、進路指導や学力向上につなげてもらいたい。漢字テストについては十分成果が出ていると思われるため、他の活動に変えてもいいのではないか。英単語テストについてもコミュニケーション	効果のあった指導法を教科内で共有し、生徒の意欲・学習成果向上に努める。
		1④ 国語・数学・英語において個々の生徒に合った内容の課題に取り組ませる。スタディサプリで配信された課題に対し、提出率30%以上を目指す。	1④ スタディサプリ利用環境を整え、到達度テスト連動課題及びその他の宿題配信を行う。生徒の取り組み状況を把握し、担任や教科担当教員の細やかな声かけ等により主体的な活用を促す。	全ての課題の提出率平均 48%	A			力を身につけさせる活動にシフトしてもよいと思う。	たくさん課題に取り組んだ生徒や成績が向上した生徒を表彰することで学習意欲を高める。職員研修等により、教員・生徒がスタディサプリをより効果的に活用できるようにする。
	1-2  主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるよう授業の工夫をする。	2① 生徒への授業アンケートで「自分が積極的に取り組んでいると思う授業とその理由」を問い、その集計結果を全教員に伝える。	2① 1・2学期末に生徒へ授業についてのアンケートをとり、結果を共有することにより、全教員の意識改善と授業力向上に取り組む。	アンケート結果についてまとめ、1学期末と2学期末の職員会議において授業改善に向けた提言内容を全教員で共有した。	A	A	生徒から先生方への、日頃の準備や配慮に対する肯定的なフィードバックを、教職員へ直接届けられるしゅきを構築した		
		2② 他の教員の授業を1・2学期、各2名以上の授業を見学する。授業見学率100%を目指す。	2② 1・2学期に各1か月全ての授業を公開し、他の教員の授業を参観できるようにする。参観することで、自らの授業力の向上につなげる。また、授業者も参観シートで助言などを受けることにより授業実践力の向上を図る。	教員2名以上の授業見学率 〔1学期〕100%(100%) 〔2学期〕100%(100%) 年間全体 100%(100%)	A			他の教員の授業を参観し、参考にした取り組みを自分の授業で実践した事例を収集する。	
		2③ 生徒への授業アンケートで「教師が工夫してくれていると思う授業とその理由」を問い、その集計結果を全教員に伝える。	2③ 1・2学期末に生徒へ授業についてのアンケートをとり、結果を共有することにより、全教員の意識改善と授業力向上に取り組む。	アンケート結果についてまとめ、1学期末と2学期末の職員会議において授業改善に向けた提言内容を全教員で共有した。	A			生徒から先生方への、日頃の準備や配慮に対する肯定的なフィードバックを、教職員へ直接届けられるしゅきを構築したい。	

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標における達成度※（）は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策	
2  基本的 生活 習慣 の 確 立	2-1  学校や社会のルールを守るとともに正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	1① 学校生活アンケートで「学校や社会のきまり・ルールを守ることができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各年次80%以上を目指す。	1① 計画的に校舎内外の巡視や服装・頭髪指導を行い、気になる生徒には声かけや指導を行う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 [1年次生] 97.5%(75.7%) [2年次生] 75.6%(80.0%) [3年次生] 97.2%(78.3%)	A	計画的、組織的な取組ができて いる。さらに自主的、実践的な態 度を育てるために、現在のサービ スラーニング(地域貢献活動)に加 え、ピア・サポートの導入によ り、上級生が下級生に対してルー ルの意味を教えたり、相談に乗っ たりする仕組みを作り、教えるこ とを学ぶことから規範意識を高め ることを提案したい。 日頃の授業を通して、基本的な 生活習慣を身につけ、礼儀正しい 生徒の育成に努めてほしい。	今年度試験的に自由服登校日(M SD)を設定した。生徒には概ね 好評であった。 生徒自ら適切な服装について判 断することや規律を守ろうとし る意識を育てることができるよ う、教職員が生徒を認めるポジ ティブな関わりを行う。	
		1② 学校生活アンケートで「うまくできないことを途中で諦めず、努力することができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各年次65%以上を目指す。	1② 朝のSHR前の10分間を朝の学習の時間とし、認知力向上トレーニング(コグトレ)を段階的に実施する。具体的には1年次生では視覚的短期記憶・聴覚的短期記憶を高めるトレーニング、2年次生では注意力や集中力、想像する力を高めるトレーニングを行い、3年次生では進学・就職試験に向けた実践的な学習を行う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 [1年次生] 84.6%(56.8%) [2年次生] 70.2%(50.0%) [3年次生] 83.3%(65.2%)			認知力向上とともに自信をつけることができるよう、生徒個々の課題に応じスモールステップで取り組める「コグトレオンライン」を活用する。	
		1③ 学校生活アンケートで「相手や場に応じた言葉遣いができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各年次80%以上を目指す。	1③ 毎月1回実施される校内人権の日において、動画説明やグループワークを取り入れた、ソーシャルスキルトレーニングを実施する。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 [1年次生] 84.6%(89.2%) [2年次生] 94.6%(87.5%) [3年次生] 94.5%(76.1%)			生徒間でよくおこる場面 や事例を取り入れた内容 となるよう工夫する。	
	2-2  学校生活を通して、自主的、実践的な態度を育てる。	2① 学校生活アンケートで「穴吹高校の生徒は、挨拶(会釈を含む)をしている」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2① 気持ちよく一日のスタートがきれよう、生徒会役員がリーダーとなり、積極的に挨拶を行う挨拶運動を毎週月曜と金曜の朝に実施する。学校生活のさまざまな場面で、全校生徒が挨拶や会釈を交わすことのできる習慣形成を図る。	「できている」「ほぼできている」と回答した生徒の割合 [1年次生] 97.5% [2年次生] 86.5% [3年次生] 97.2% (84.0%)	A	挨拶や会釈を交わすことのできる習慣をそのまま継続できるよう学校の雰囲気作りを生徒、教員ともに大切にする。		
		2② 学校生活アンケートで「自分は清掃活動に丁寧に取り組んでいる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2② 1・2学期に清掃活動を頑張っているクラスまたは清掃分担場所を表彰する「びかびかコンテスト」を実施することで、学習環境を整え、公共物を大切に活用する意識の高揚を図る。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 [1年次生] 100% [2年次生] 56.7% [3年次生] 94.4%			B	校内の清掃だけでなく、校外清掃活動にも積極的に参加した。頑張りを感じる声かけを継続する。
		2③ 学校生活アンケートで「あなたはゴミの分別に気をつけていますか」の問いに対し、肯定的に回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2③ 毎月アースデーを設け、美化委員がゴミの分別を呼びかけ、分別したペットボトルキャップの回収を行う。ペットボトルキャップは家庭からの持ち込みも可としており、「クラス対抗エコキャップバトル」としてペットボトルキャップ回収量の最も多いクラスを表彰することにより、校内のみならず、家庭でもゴミ分別の意識高揚を図る。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 [1年次生] 94.8% [2年次生] 86.5% [3年次生] 97.2% (82.4%)			A	学校内でのゴミ分別の他、校外での清掃活動後にもゴミの分別作業を行う。

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標における達成度※（）は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策	
他者と協調・協働できる力の育成	3-1 自他の生命や人権を尊重する態度を養う。	1① 学校生活アンケートで「相手の気持ちを気づかった関わり方ができる」という問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	1① ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、その目的をしっかりと伝えるときともに生徒の興味関心や実情に合わせた内容を取り扱う。	「できる」「ほぼできる」と回答した生徒の割合 〔1年次生〕 97.4%(75.7%) 〔2年次生〕 91.9%(77.5%) 〔3年次生〕 97.2%(89.1%)	A	自他の生命や人権を尊重する態度を養い、人権問題の解決に向けて取り組む力を育むことができている。今後は、自分のSOSを誰かに伝えることや、困ったときに信頼できる大人や機関に相談できるスキルを育成する必要がある。生徒同士、また周りの人々と支え合える生徒の育成を目指してほしい。	次年度も同等の機会を提供し、生徒の防災意識を高め、活動に主体的に取り組むことができるよう支援する。	
		1② 学校生活アンケートで「困ったときに相談したり助けを求めたりできる先生や友人がいる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	1② アンケート調査や校内巡視を行い、いじめの早期発見につなげるとともに、いじめ防止に関するホームルーム活動や講演会を実施したり、教職員及びスクールカウンセラーによる相談体制を強化したりすることで、学校が安心・安全の場となるように努める。	「いる」と回答した生徒の割合 95.3%(86.4%)			A	生徒が相談しやすい環境をつくるために、教職員が生徒の気持ちを理解するよう丁寧な関わりを意識するとともに、スクールカウンセラーとの連携を強化する。
		1③ 避難訓練を年間2回、防災クラブの活動を年間7回行う。	1③ 生徒の防災意識を高め、発災時に適切な行動を取ることができるよう、避難訓練や防災クラブ活動を推進する。	避難訓練2回(2回) 防災クラブの活動9回(7回) 実施			A	
	3-2 生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図り、人権問題の解決に向けて取り組む力を育む。	2① 12月に実施する人権問題意識調査において、校内での人権学習にクラスが「活発に取り組めた」「どちらかと言えば活発に取り組めた」と回答する生徒の割合が80%以上を、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答する割合が70%以上を目指す。	2① 人権ホームルームを年間5回行い、人権問題意識調査を年間2回実施し、生徒の意識の変化を分析する。	「活発に取り組めた」「どちらかと言えば活発に取り組めた」と回答する生徒の割合95.3%(89.8%) 人権問題解消に向けての意欲を持つ回答の割合68.2%(76.9%)	B	蕎麦刈りでは、小泉さんや住民さんに聞きながら最後まで粘り強く作業できた。蕎麦打ち体験では生徒で教え合いながら最後まで責任を持って取り組んでいた。継続して参加する生徒や、観光業に携わりたいと考える生徒、そして卒業生も地域と繋がっていることが嬉しい。多様な他者との関わりのおかげで、温かさに触れ、物を作り上げる喜び、充実感、達成感を感じ、そこから生まれる感動、温かい気持ちは残る。生徒にも地域の方の温かさに触れてほしい。	人権問題学習について生徒は活発に取り組んでいる。ホームルーム活動等の内容を工夫し、生徒に人権問題解消に向けての意欲をより持たせることが課題である。	
		2② 12月に実施する人権問題意識調査において、校内での人権学習に「まじめに取り組んだ」「どちらかと言えばまじめに取り組んだ」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2② ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、その目的をしっかりと伝えるときともに生徒の関心や現代社会の実情に合わせた内容を実施することで、生徒の学習意欲を喚起する。生徒の取組に対する教員アンケートを行う。	「まじめに取り組んだ」「どちらかと言えばまじめに取り組んだ」と回答する生徒の割合97.2%(93.2%)			A	人権問題学習については真面目に取り組んだ生徒の割合も高く目標は達成された。生徒の実態や社会の実情に合わせて、内容をさらに充実させていくことが課題である。
	3-3 礼儀正しい態度を育成し、コミュニケーション能力を高める。	3① 部活動生集会を各学期に1回ずつ開催する。部活動顧問と担任や教科担当教員が部活動生について話をする機会を作る。	3① 部での活動全てが学校の活性化につながることを自覚させるために、部活動生集会を開催する。また部活動が生徒にとってよりよい成長の場となるよう部活動顧問、担任、教科担当教員が連携し指導にあたる。	部活動生集会は1学期に1回実施、3学期に1回実施実施予定。部活動生が学校外での活動に参加し、学校の活性化に繋がった。	B	98%の生徒が協働して取り組むことができた」と回答した。実行委員会を中心に運営に積極的に取り組んだ。	部活動の活動の様子や試合の結果、部活動生が参加した地域貢献活動などを、広報媒体を活用し本校の生徒や地域に関心をもってもらう。	
3② 華の丘祭のアンケート（生徒・教員・来場者対象）において、「生徒が華の丘祭の運営に協働して取り組むことができた」と肯定的に回答する人の割合が80%以上を目指す。		3② クラス・委員会活動・部活動で協力して準備・運営を行えるよう担当教員が連携して指導にあたる。		A			実行委員会や生徒会役員の生徒らが企画の段階から携わることができるようにする。	
3-4 成年年齢の引き下げに伴い主権者としての自覚と実践力を養う。	4① 県が実施するアンケートで「18歳になれば選挙に行こうと思う」という問いに肯定的に回答する人の割合が70%以上を目指す。	4① 学校全体の教育活動を通じて、生徒一人ひとりが政治や選挙への関心を高めることができるよう指導にあたる。	肯定的な回答をした人の割合 〔1年次生〕 63.7%(62.9%) 〔2年次生〕 59.4%(64.8%) 〔全体〕 63.1%(63.9%)	B	高校生にとって「選挙」が身近に感じられないのではないか。例えば、フェイスニュースの心配が少ない新聞を毎日読むことで、自分の生活や、社会にどんな問題があり、それらに対して国会や地方議員が何をしようとしているのか、正しい情報を読み解き、自分に無関係ではないことを自覚し、選挙権を行使する大切さを知ってほしい。	昨年より下回る結果となった。今後は市議会見学や地域学習の時間を通して身近な問題について考え、生徒が政治に関心を持つよう働きかける。		

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標における達成度※（）は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
4  地域に開かれた信頼される学校づくり	4-1  ふるさとに誇りを持ち、協働して働く力の育成を図る。	1① 地域に貢献する取組を年間5回以上行う。	1① そば刈りなど、地域と連携する活動に積極的に参加する。地域の人と関わりながら、地域の活動に貢献する実感を通して自分のふるさとへの愛着と、協働する喜びを得る。	エシカルクラブ、家庭クラブが5回、JRCが7回、防災クラブが2回、地域と連携して活動した。その他の生徒も地域貢献活動に参加し、ふるさとへの愛着と協働する喜びを得た。	A	地域貢献活動により、協働して働く力の育成を図ることは成果をあげており、さらに、地域に信頼される学校を目指し、地域の方々と関わる機会をつくる中で、高校生ならではの「地域活性化案」の提案活動につなげてほしい。	少しずつ地域貢献活動に参加する生徒の輪を広げていき、地域のひとたちと繋がっていると実感できる生徒を増やす。
		1② 地域貢献活動に参加する生徒を増やすよう努める。	1② 地域貢献活動の意義をすべての教職員が理解し、総合的な探求の時間、講演会、地域の農業体験などの活動を通してその魅力を生徒に伝え、その活動への生徒の積極的な参加を促す。Instagramを活用し、生徒がみつけた地域の魅力を発信することで生徒の地域貢献活動の意欲向上の一助とする。	生徒は地域の方と関わることに楽しさや自己有用感を感じ、積極的に地域貢献活動に参加する傾向になった。Instagramでは校内の様子や、地域貢献活動の様子を伝えた。	A	SNSでの発信については今まで通り教師と生徒が話し合いながら発信内容をしっかり吟味し、決定してほしい。 今後の活動案として、風和里農家レストランで自分たちで育てたそば粉やお茶を使ったメニューの考案、ランチで提供する、集落でのいきいきサロンに参加し、高齢者の方と一緒に料理、体操、清掃活動などを行い、地域の実情を知り、地域の困りごとを知る機会を持つ、住民インタビューなどが挙げられる。集落での宿泊体験や防災訓練参加、集落の高齢者の話し相手、高校生によるスマホ講習もよいのではないか。調理室を開放し、いきいきサロン、ヘルスメイトなど、コミュニティ活動に活用するなど効果的である。 地域とのつながりを大切にし、地域に親しまれ、信頼される学校作りに取り組んでほしい。 にし阿波地域の世界農業遺産を未来へ引き継ぐために、地域独自の農業や農文化について学習し、地元愛を育み、地域と関わり続けてもらえる人材となしてほしい。引き続き世界農業遺産農業地域での現地学習や学習成果の発表、生産者との交流などを通じて農業遺産地域におけるSDGs教育への参画をお願いしたい。	引き続き、地域貢献活動への参加を積極的に促す。活動を通してみつけた地域の魅力を生徒ら自身で発信する案を考えていく。
	4-2  地域に信頼される学校を目指し、地域の方々と関わる機会をつくる。また、広報活動を積極的に行う。	2① 穴吹高校への入学志願者を増やすために広報等に努め、また、本校の生徒にもそのためにできることを考えさせ、実行させる。	2① ホームページで中学生体験入学や11月のオープンスクールの日について情報発信を行う。また、8月の体験入学に本校の生徒が主体的に参加するように促し、穴吹高校の生徒が生き生きとしている様子に中学生やその保護者に接してもらうことで入学したいと志願する生徒を育成する。	4教科の体験授業で穴高生が運営に携わった。また、8月体験入学で54名の中学生が参加し、11月オープンスクールでは20名の中学生が参加した。	B	のいいきサロンに参加し、高齢者の方と一緒に料理、体操、清掃活動などを行い、地域の実情を知り、地域の困りごとを知る機会を持つ、住民インタビューなどが挙げられる。集落での宿泊体験や防災訓練参加、集落の高齢者の話し相手、高校生によるスマホ講習もよいのではないか。調理室を開放し、いきいきサロン、ヘルスメイトなど、コミュニティ活動に活用するなど効果的である。 地域とのつながりを大切にし、地域に親しまれ、信頼される学校作りに取り組んでほしい。 にし阿波地域の世界農業遺産を未来へ引き継ぐために、地域独自の農業や農文化について学習し、地元愛を育み、地域と関わり続けてもらえる人材となしてほしい。引き続き世界農業遺産農業地域での現地学習や学習成果の発表、生産者との交流などを通じて農業遺産地域におけるSDGs教育への参画をお願いしたい。	ホームページによる情報発信の他、郵送による案内も行ったが、今後、さらに効果的な広報活動について模索していきたい。
		2② 穴吹高校の生徒が、中学校への学校説明に参加する機会を作る。	2② 学校説明に参加したい生徒を募り、中学生の興味を惹けるような学校説明に本校の生徒が主体的に関われるようにする。	11月のオープンスクールでの学校説明会へ参加する在校生を募集し、それに応募した1・2年次生に説明会での発言と進行を委任した。	A	「必ず見ている」「ある程度見ている」と解答した保護者の割合 81.4%(52.6%)	今回、説明会へ参加した生徒は4名だった。次年度はその人数を上回るように効果的な呼びかけを行っていきたい。
		2③ 保護者アンケートにおいて「学校からの通知や広報物に目を通している」と答える保護者の割合を60%以上を目指す。	2③ 広報や通知等を郵送するだけでなく、学校ホームページへの掲載やさくらメールの活用により情報発信を多く行い、保護者が目を通しやすいように図る。	11月14日に穴吹中学校の生徒、同窓会役員を招き、本校の1・3年次生全員と2年音楽I選択者も参加し実施した。	A		肯定的な解答の保護者の割合が8割を超えているので今後もホームページ連絡メールを活用する。
		2④ ピアノコンサートを年1回以上開催し、近隣中学校生徒や同窓会員にも公開する。	2④ ピアノコンサートを開催することで地域有志より寄贈された本校のスタインウェイピアノを周知すると共に、同窓会活動の活性化の一助とする。				引き続き学校ホームページやInstagramで広報活動を行いピアノコンサートを継続していく。

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標における達成度※（）は昨年度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
5 働きやすい活力ある職場としての学校づくりを行う。 職場としての学校づくりを行う。	5-1 働きやすい活力ある職場としての学校づくりを行う。	1① 時間外勤務が月45時間を超える教員をなくすよう努める。	1① 出退勤管理システムを活用し、職員自らが勤務時間を把握する。また、管理職及び職員間でのサポート体制を構築し、勤務の均等化を図りながら、対象教員の育児・看護・介護休業や年休などの休暇取得促進に努める。	時間外勤務が月45時間を超える教員延べ28名 (昨年度は14名)	C	働きやすい活力ある職場としての学校づくりを推進するために、AIによる業務の効率化を進め、ライフワークバランスの改善を図ってほしい。 時間外勤務が増えていることから、職員同士での業務の支援体制の工夫について検討していくことが必要だと思う。 業務の精選も必要である。	次年度も、出退勤システムを活用し、時間外勤務が多い教員に対してサポートをしながら、校務負担の不均衡の是正に努める。
		1② 教員が毎日11時間の勤務時間インターバルを確保できるようにする。	1② 職員自らが勤務時間外の業務を見直し、朝の出勤時間と夜の退勤時間のバランスを調整する。十分な休息と準備時間を確保できるよう、業務の優先順位を共有し、効率的な働き方を実現しつつ、心身の健康と教育の質の両立をめざす。	11時間の勤務インターバルを全員が確保できた日は勤務日数の84%	B		
		1③ 月1回の定時退勤日を設定し、実施率90%以上を目指す。	1③ 毎月第3水曜日を「定時退勤日」として全教職員に周知し、原則として残業を控える日とする。会議や業務の調整を事前に行い、職場全体で業務を効率よく終えることに価値を置く意識を醸成する。	定時退勤日の実施率は55%	B		
		1④ 会議を簡素化し、1回の会議を1時間以内で終了することができるように努める。	1④ 会議の目的・内容を明確化し、事前配布資料やICTを活用して効率的に進行する。報告や議論を要点に絞り、必要最小限かつ実りある対話を意識することで、時間を有効に活用し、業務の効率化を図る。	事前に資料を配付したり、ICTを活用したりしながら、4月から徐々に時間を短縮し、最近では職員会議を1時間で終わらせることができた。	B		今後も、会議を精選した上で、目的・内容を明確化し、事前配布資料やICTを活用して効率的に進行できるように努める。









